

令和元年度学校評価

富丘つくし幼稚園長 遠藤英一

1. 本園の教育目標

幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し思考する過程を大切にしたい教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教師との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領が改訂されたことを踏まえて、幼稚園の教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、幼稚園が今後担う役割について検討する。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	取組み状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	新幼稚園教育要領の理解を全教職員で、積極的に推進し、それを現実の保育に添わせるように、職員会議や園内研修など具体的な場面について話し合いを行っている。
幼稚園の状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	新幼稚園教育要領にも示されているように、就学前の幼稚園に求められる10の姿を念頭に置きながら、社会的なニーズの変化も加味しながら、中・長期のビジョンを策定を検討している。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	幼児の発達の姿を捉えるための研修を定期的実施するとともに、日々の子どもの姿について話し合う機会を毎日の職員会議でもつようにし、自由闊達に意見が開示できる環境をつくっている。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	保護者との学級懇談会、個別懇談会や参観日、さらには、保育後の保護者への電話連絡など保護者とのコミュニケーションを図るとともに、行事などについてアンケートを実施。出された意見に対して、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組んでいる。
特別支援教育への理解を深めるとともに、子供への対応を工夫する。	各クラスにいる特別支援を必要とする子ども達の情報を職員全体で共有し、園全体でコーディネーターを中心にサポートしている。また、専門の指導員の巡回を受け、より良い援助が出来るように努めている。
園だよりやクラスだよりを通じて、幼稚園の情報を発信していく。	学期ごとの園だよりや毎月のクラスだよりを通じて、幼稚園の情報を積極的に発信している。

各研修会や研究会に積極的に参加して、職員に報告するとともに資料提供する。	各種研修会や研究会に参加し学んだことを報告書にまとめ、職員会議等において提供し、共有化を図る様になっている。
特別保育の英語教育の質の向上を図る。	夏休みの機会をとらえて、園の主催により、初級講座を受けた教員の英語の質を向上させるため、中級講座を開催した。また、当園の公開保育において、全クラスにおいて、英語の授業を実施し、参加した札幌市内の幼稚園教諭と英語講師との意見交換会を開催した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取組み状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践する礎とすることができている。</p> <p>今後は、幼稚園と言う特性を生かして、新幼稚園教育要領にある10の姿のうち、自立心や豊かな感性と表現、思考力の芽生え、言葉による伝え合いなどの非認知能力の育成に特に力を入れて取り組んでほしい。</p>
--

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
安全管理	不審者情報が市教育委員会や警察から、随時提供されるようになってきたが、それに対する園での対応が十分ではないので、施設面での対応と、教員の意識づけや学校安全計画、並びに危機管理マニュアルの作成を行いたい。
指導計画の編成	子供たちが将来遭遇するであろうAIやロボットなどの最新テクノロジーを活用した便利な社会を見据えて、その社会に必要な能力は何なのかを教師一人ひとりが自覚しながら、3年間の教育において、それぞれの段階での個別の指導計画の作成と園全体の集約した指導計画の編成を検討する。
園に対する保護者の満足度の把握	建学の精神に則った、私学の独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、現代社会において求められる幼稚園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎としたい。